



医師不足地域を支える医師



順天堂大学医学部附属静岡病院
循環器内科 教授
諏訪 哲 先生

所謂平成の大合併で伊豆長岡町が消滅した為、順天堂大学医学部附属伊豆長岡病院が改称され静岡病院と名を変えている。静岡市に存在するのかと良く間違われるのであるが、現在の伊豆の国市に存在している。決して都市部とは言えない田舎の病院が私の勤め先である。静岡県東部、とりわけ伊豆半島、特に天城山より南側は過疎化と人口高齢化が顕著である。

都市部への人口の流出特に若い人々が仕事を求め、またより利便性の高い生活を享受したいがための行動で、抗うのは極めて困難である。その結果過疎地域と称されるところでも人口の集約化が起こっている。山間部に家屋が点在する集落は衰退し、主要な街道沿い、海辺の近くの平地に人が集まりつつある。

陸続きで道路が整備されつつある現状では、より効率的な医療資源の投入を考える際には医師の分散点をさせるのではなく、集約化を行い拠点となる医療機関を整備拡充するのが得策考えられる。遠く離れた孤立地域がない状況で若い医師が一人医長で単身赴任して地域の医療を担う状況は考えにくい。拠点となる病院では症例が集まり、研修を受ける機会がより充実するものとなる。一方情報伝達の手段の発達には留まることなく、医療情報は文献だけではなく画像や動画を何時でも何処でも簡単に手に入れることが可能である。知識を得ることに関しては地域間格差が極めて縮まったと思われる。人手不足を逆向きに捉えると貴重な症例にあたる可能性や手技治療を多く経験できることに繋がる。

近い将来より社会基盤が整備されて行くことは間違いない。静岡県東部、伊豆半島は東京から近い距離でもあり、新幹線、高速道路等の交通網も発達しており地方の田舎から首都近郊の様相が高まってくると推察される。自然豊かな良い環境で地域医療に従事することは豊かで充実した医師としての人生を具現化するものと思われる。